

2007 年 4 月吉日

報道関係者各位

虎屋文庫機関誌

『和菓子』第14号発行

2007年3月発行(年1回発行)

B5版／129 頁／900 円(税込み・送料 290 円)

虎屋文庫は和菓子テーマとした展示、講演会の開催のほか、和菓子関連資料の収集、機関誌の発行などの活動を行っております。この度、機関誌『和菓子』第14号を発行致しましたので、概要をお知らせ申し上げます。

機関誌『和菓子』とは

菓子や菓子に関連する事柄についての論文や史料翻刻を中心とした学術雑誌で、1年に1回、発行しております。毎回「茶の湯」「九州」「まじない、占い」など、菓子に関わる特集を設けています。

第14号の特集—鎖国時代の異国人への饗応菓子

鎖国時代に異国人を饗応するにあたり、どのような菓子が使われたのでしょうか。今回は外交史の裏側を、身近な嗜好品である菓子を視点にとらえられないかと試みました。題材として長崎出島のカピタン(商館長)、朝鮮通信使、沖縄に送られた中国の使節、冊封使^{さつぽうし}を考え、その分野の専門家の方に執筆をお願いいたしました(下記参照)。また、上記とは逆の例として、嘉永6年(1853)ロシア使節プチャーチン一行が日本通詞ほかに贈った菓子ほか様々な品々の記録史料(吉田コレクション蔵)を紹介しました。

特集執筆者紹介

○片桐 一男 (かたぎり かずお)

青山学院大学名誉教授。著作に『阿蘭陀通詞の研究』(吉川弘文館)、『江戸のオランダ人』(中央公論新社)などがある。

○高正 晴子 (たかまさ はるこ)

梅花女子大学短期大学部教授。著作に『朝鮮通信使の饗応』(明石書店)、『赤米に魅せられて』(共著 窓映社)などがある。

○安次富 順子 (あしとみ じゅんこ)

沖縄調理師専門学校副校長。著作に『ブクブク茶』(ニライ社)、『日本一長寿県沖縄に学ぶ健康長寿食』(女子栄養大学出版部)などがある。

*** 虎屋の御用記録の公開**

長年にわたって御所の御用を勤めてきた虎屋には、数多くの古文書が残されています。そのなかでも『後陽成院様御代より御用諸色書拔留』は、重要な御所御用や虎屋にとって忘れてはならない大切な出来事を記録した史料です。大部に及ぶ本史料を数次に分けて翻刻。3回目の今号では、光格天皇の即位や大嘗会に関わる御用など、当時の宮中の儀礼を知る上でも貴重な記事が掲載されています。

購入方法

- 書店には流通しておりません。郵送にて販売致します。(1冊 900円 送料／1冊につき 290 円)
- 虎屋文庫資料展開催中には、虎屋ギャラリー受付にても販売いたします。
次回開催 5月18日～6月17日 「和菓子百珍展 その2」

バックナンバーも販売中

創刊号、2号は品切。3号～13号は販売中。

購読お申し込み・お問い合わせ先

〒107-8401 東京都港区赤坂4-9-22

株式会社 虎 屋 虎屋文庫

TEL 03-3408-2402 FAX 03-3408-4561

E-mail bunko@toraya-group.co.jp

バックナンバーを贈呈しております。ご希望の方は上記までご連絡下さいませ。
